コミュニティが所有するスポーツクラブの事業展開とソーシャル・エンタープライズ
-FCユナイテッド・オブ・マンチェスターの経営資料に基づく考察-

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2018-07-31
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 張, 寿山
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/19552

２０１７年１２月２５日

「博士学位請求論文」審査報告書

審査委員　（主査）　法学部　専任教授

氏名　　山泉　進　　㊞

（副査）　法学部　専任准教授

氏名　　釜崎　太　　㊞

（副査）　政治経済学部　専任教授

氏名　　高峰　修　　㊞

（副査）　商学部　専任教授

氏名　　柳沢　敏勝　　㊞

１　論文提出者　　張　寿山

２　論文題名　　コミュニティが所有するスポーツクラブの事業展開とソーシャル・エンタープライズ
―FC ユナイテッド・オブ・マンチェスターの経営資料に基づく考察―
（英文題）Business Development of Community Owned Sport Club and Social Enterprise : A Study based on Management Documents of FC United of Manchester

３　論文の構成

序章

Ⅰ章　先行研究の検討

１．仮説構成に関わる先行研究

（１）　サードセクター論

（２）　政府、市場に対する第３の社会セクター

（３）　スポーツ事業活動とサードセクター

（４）　スポーツ組織

（５）　スポーツの持つ公益性とスポーツクラブのコミュニティへの貢献

２．本稿で用いる諸概念に関わる先行研究

（１）再配分・市場・互酬とイギリスのチャリティ
（２）組織・制度論
（３）スポーツ
３．用語の定義
Ⅱ章　研究対象であるFCUMの経営資料について
１．FCUM活動内容検証のための資料の全体像
２．経営資料の内容
（１）　基本方針、内部規則等（Policy Document）
（２）　財務報告書とその関連資料（Financial Report）
（３）　テンエーカーレーン関連資料（Ten Acres Lane）
（４）　ブロードハストパーク（Broadhurst Park）
（５）　その他一般（General and Miscellaneous）
（６）　理事会資料（Board Meetings）
（７）　総会、年次総会、臨時総会等（General Meetings, AGMs, EGMs）
（８）　メンバー会議（Member's　Meetings）
Ⅲ章　FCUM創設の経緯と今日までの歩み
１．イギリスにおけるフットボールの歴史、マンチェスターを中心に
２．イングランドのフットボールリーグシステム
３．過剰な市場化路線を走るプレミア・リーグへの不満の蓄積
４．FCUM設立の経緯
５．設立理念とその歩み
６．横浜FCとの事例比較
Ⅳ章　FCUM経営資料による活動内容の把握
１．経営体制とガバナンス
（１）　FCUMの法人格と定款
（２）　FCUMの経営組織体制
（３）　FCUM経営組織の実態と機関決定の仕組み
（４）　定款と実際の経営体制の違いにより生じた問題
２．収支及び財務諸表の解析
（１）　財務報告書の様式とその内容
（２）　収入の考察
（３）　支出の考察
（４）　財務報告をめぐる理事会或いは総会での議論
３．コミュニティ事業の実態の把握
（１）　スポーツ組織のコミュニティ事業
（２）　FCUMのコミュニティ事業の内容
４．コミュニティ事業についての考察
（１）　コミュニティの交流を中心とした事業
（２）　社会貢献を中心とした事業

（３） FCUMのコミュニティ活動に対する自己認識と社会の評価

５．ホームスタジアム建設プロジェクト、その意義と派生した問題点

（１） スポーツクラブにとっての活動拠点が持つ意味

（２） FCUMホームスタジアム、ブロードハストパーク建設の経緯

（３） 建設資金に関する考察

（４） 建設プロジェクトにより派生したクラブ経営の問題点

Ｖ章　FCUM事業内容に基づく検証の結果と考察

１．FCUMがソーシャル・エンタープライズであることの検証

２．コミュニティスポーツクラブにおける経営の成功についての考察

（１）経済的成功

（２）事業における成功

（３）スポーツ競技における成功

（４）ガバナンスにおける成功

終章　コミュニティスポーツクラブとサードセクター論の展望

１．コミュニティスポーツクラブが持つ強力なハブとしての機能

２．コミュニティスポーツクラブの持つ機能を最大化させるための社会制度設計

３．中間領域としてのサードセクターの充実なのか、コミュニティの復権なのか

引用文献

４　論文の概要

本論文は、2005年にイギリスのマンチェスターにおいて設立されたフットボールクラブ、FCユナイテッド・オブ・マンチェスター（以下、FCUMと記す）が、支持会員に開示している1000件以上の経営内部資料を分析することにより、コミュニティが所有するスポーツクラブ（以下、コミュニティスポーツクラブと記す）の事業活動実態を解明し、そのことを通して、このクラブがソーシャル・エンタープライズ（Social　Enterprise）の持つべき条件を満たしていることを検証したものである。そのうえで、ソーシャル・エンタープライズとしてのコミュニティスポーツクラブが、将来的に、スポーツ活動を通してどのような社会的な役割を果たしうるのか、その公益的側面からの可能性を考察したものである。

第Ⅰ章においては、本論文を追考するにあたっての先行研究についての検討をおこなっている。この検討においては、仮説構成に関わる先行研究と本稿において用いる分析のための諸概念についての先行研究との二つの点からおこなわれている点に特色がある。前者は、政府・市場・コミュニティの中間領域に存在するサードセクター論を中心にして、スポーツ組織についての研究がどのように探求されてきたのか、この点に言及している。後者においては、①再配分・市場・互酬とイギリスにおけるチャリティ、②組織・制度論としての「法人格」「コミュニティ」「ネットワーク」、③スポーツ、以上に分類して、関連する諸概念についての先行研究を論じている。

第Ⅱ章は、本論文においてコミュニティスポーツクラブの具体例として取り上げた、FCUMの経営資料の全体についての説明とその資料の個別的内容を分類して紹介をおこなっている。個別的な資料内容としては、①基本方針、②財務報告書、③テンエーカーレーン関連資

料、④ブロードハストパーク、⑤一般資料、⑥理事会資料、⑦総会関係資料、⑧メンバー会議資料に分類される。これらは、一覧表としてまとめられ、87 頁から 21 頁分にわたって紹介されている。

第Ⅲ章では、FCUM の設立の経緯と今日までの活動歴が取り上げられている。その前提として、イギリス、とりわけマンチェスターにおけるフットボールの歴史と現状を紹介する。これによって、プレミア・リーグで活躍するマンチェスター・ユナイテッドやマンチェスター・シティが存在するマンチェスター地域において、FCUM というコミュニティスポーツクラブがどのような経緯のもとで誕生したのかを考察している。また、このクラブがもつ社会的・歴史的背景を考察し、経営資料の分析のための補助的な考察としている。

第Ⅳ章は、FCUM の経営資料分析をとおして、FCUM の組織実態と行っている具体的な事業内容を考察し、紹介をおこなっている。もちろん、この章が、本論文の事例的研究の中心部となっている。検討項目は次の５つである。①経営体制とガバナンス、②収支及び財務諸表の解析、③コミュニティ事業の実態の把握、④コミュニティ事業についての考察、⑤ホームスタジアム建設プロジェクト、である。例えば、①においては、イギリスにおける法人組織全体を俯瞰し、この組織がイギリス国会制定法による非営利組織であることを明確化し、またイギリスにおける公益セクターのなかでの位置づけをおこなっている。

第Ⅴ章は、前章での事業内容の全体的な把握を通して、FCUM がソーシャル・エンタープライズであるための諸条件を満たしていることを確認している。その前提として、ドゥフルニ（Defourny）等によって提起されている９つのソーシャル・エンタープライズの条件を掲げ、その条件を FCUM の事業活動と照合する作業をおこなっている（一覧表は 244 頁）。そのうえで、コミュニティスポーツクラブ一般が経営的な成功をおさめるための条件として、①経済的成功、②事業における成功、③スポーツ競技における成功、④ガバナンスにおける成功、を挙げ、その内容について考察している。

終章は「コミュニティスポーツクラブとサードセクター論の展望」と題して、コミュニティスポーツクラブをソーシャル・エンタープライズとして捉えることにより開かれてくる、新しい研究課題、あるいは実践的な指針について言及している。これにより、スポーツ組織が政府・市場・コミュニティという３つの社会セクターの間に存在するサードセクターとしての役割をはたすことによって、生活空間であるコミュニティの復権へと繋がることを明らかにしている。

５　論文の特質

FCUM についての 1000 点にのぼる経営資料を入手・整理・分析した、コミュニティスポーツクラブについての事例的な考察と、それをソーシャル・エンタープライズ論という理論的分析に結び付けて論じた点に本論文の特質があるといえる。事例的考察と理論的分析のいずれの点においても十分な実証的考察と論理性でもって貫かれている。しかも、従来のソーシャル・エンタープライズ論において取り上げられることがなかったスポーツ組織について、コミュニティスポーツクラブの視点からアプローチしたところに着眼点上のオリジナリティがあるといえる。これらのことから、本研究論文は、①コミュニティスポーツクラブについての経営・事業分析、②スポーツ組織論、③ソーシャル・エンタープライズ論、の３つの分

野にまたがる総合的な考察をおこなったといえる。数多くの図表と一覧表（図表リストは目次の後ろに付されている）を用いた 300 頁にわたる論考は、その質の高さにおいても努力の結集であるといえる。

６　論文の評価

20 世紀末から西・南ヨーロッパ諸国の研究者を中心に盛んに議論されるようになってきた一つの流れはソーシャル・エンタープライズ（社会的企業）論および社会的連帯経済論であった。しかし、これまでソーシャル・エンタープライズに関わる議論においてスポーツが主たる対象として取り上げられることはなかった。その点において、本論文はスポーツとソーシャル・エンタープライズとの関係についての新しい研究分野を開拓したといえる。また、コミュニティスポーツクラブである FCUM について、経営・事業分析にもとづいてソーシャル・エンタープライズであるかどうかの検証がなされてきたわけではなかったことから、その先駆性を評価することができる。全体的にみれば、ソーシャル・エンタープライズ論の新領域を切り拓いているという点で本論文の価値は高いと判断できる。

７　論文の判定

本学位請求論文は、教養デザイン研究科において必要な研究指導を受けたうえ提出されたものであり、本学学位規程の手続きに従い、審査委員全員による所定の審査及び最終試験に合格したので、博士（学術）の学位を授与するに値するものと判定する。

以　上